ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-2(中央部)	調査位置				北　緯	36 ° 50 ’ 47.8700 ”
発 注 機 関	栃木県　大田原土木事務所		調査期間	2009-07-04 ～ 2009-07-07		東　経	140 ° 11 ’ 58.6400 ”
調 査 業 者 名		主任技師	現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者	ボーリング責任者	
孔 口 標 高	294.24 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °
総 掘 進 長	7.00 m	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポ ン プ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	293.84	0.40	0.40		表土 (SF)	暗灰			非常に軟質な有機質シルトから成る。土は含水やや高い。		0.30
1	292.54	1.30	1.70		礫混り砂質シルト (MS-G)	暗灰	密な	中位	泥質なシルトから成り、多量の角礫(岩片)を混入する。礫はφ30～50mmを主体とし、コア長5cm内外(推定φ150mm前後)の岩塊をも混在する。		
2	290.89	1.65	3.35		シルト質砂礫 (GSM)	暗灰	非常に密な		φ5～30mm程の亜角礫～角礫を主体にコア長3cm内外(推定φ80mm前後)を混入する。礫間は多量のシルト分と砂分で埋められ、充填度合いにはややバラツキが見られる。GL-2.7m以深、細砂分の含有を増す。		
3	290.34	0.55	3.90		風化岩 (WR)	暗灰			土砂用ビット(メタルクラウン刃先)で掘進可能。風化・変質が岩体内部まで進行し、コアは砂質粘土状で採取される。GL-3.7m以深、角礫状コアを混じる。		
4	287.18	3.16	7.06		頁岩 (Sh)	暗灰			岩盤用ビット(ダイヤモンド刃先)での掘進が不可欠となる。GL-3.3mまでは角礫状コアとなる。以深、角礫状～片状コアを連続するも、コアの外周は保たれる。GL-4.95m以深、細かい層理が網目状に発達し、細礫状～砂状コアで採取される。風化・変質は割れ目沿いに見られ、局所では脆弱化を伴うが、母岩自体の硬度劣化は感じられない。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	2	2	1	5／30	5
1.45					
2.15	8	12	16	36／30	36
2.45					
3.15	7	13	30	50／30	50
3.45					
4.00	50			50／10	>50
4.10					
5.00	50／8			50／8	>50
5.08					
6.00	50／5			50／5	>50
6.05					
7.00	50／6			50／6	>50
7.06					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						07/04
						07/06
						07/07